



こんにちは、 岐教事です！

岐阜教育事務所だより
11月号 (No. 8)
平成 29 年 12 月 1 日発行

学校訪問ありがとうございました

学校職員課 学校人事係



11月末で学校経営・人事管理訪問が全て完了しました。今年度は、岐阜管内の65校を訪問させていただきました。全ての学校で、児童生徒を大切にされた実践がなされており、感謝申し上げます。ここに、確かな実践を紹介させていただきます。

■学校の経営ビジョンを具体化することから

管理訪問にうかがうと、最初に学校説明をしていただきます。校長先生の経営ビジョンを受けて、教頭先生、主幹教諭、教務主任、生徒指導主事の先生と順に説明を聞きます。多くの学校でリーダー層の先生による実践提案が校長先生の経営ビジョン実現につながる内容でした。中でも、児童生徒の実態把握を的確にするために、具体的な数字を挙げながら説明していただくと大いに納得できました。特に、夏休み以降に訪問した学校では、年度当初からの進捗状況（児童・生徒の変容、アンケート結果の分析…「今、ここまでできるようになった」）を具体的に説明していただける学校がいくつもありました。PDCAサイクルを確立し、組織がうまく機能していることが伝わってきました。

■授業改善の視点から

「アクティブラーニング」の考え方が注目される今、多くの学校が改めて授業改善を図っていただいています。授業参観から感じたことは、仲間との「学び合い」を大切にしている先生が多かったことです。一問一答式で、発表する子どもの意見だけで進めていくのではなく、分からない時は声をあげようと児童生徒に伝えたり、自分の考えをもったうえで仲間と話し合う場面を設定したりする先生方が多くなってきたと感じます。また、単位時間の授業において「付きたい力」を明確にし、確実に身に付けるために学習方法を工夫する素晴らしい実践も多くありました。やはり、「ねらい（課題）一活動一評価」が一貫した授業は大変分かりやすく、子どもが主体的に取り組む基盤であることが分かりました。

■学校のスリム化・勤務の適正化に向けた取組から

効果をあげている学校には、次のような特徴がありました。

- 1 市町教育委員会や校長先生が自らリーダーシップを発揮している。
- 2 職員一人一人が何を工夫できるか考え、実践している。
- 3 学校の教育活動について、「何のためか」「子どもにとって必要か」等、目的や価値を考えることを大切にしている。
- 4 時間外勤務や年休取得等の実態把握、目標値を設定し数値で効果を検証している。

明日も元気に、笑顔で子どもの前に立てるよう、今後も共に考えていきましょう。

12月を迎え、いよいよ今年度の仕上げをしていく時期になります。今年度のゴールで確かめた姿や意識は、そのまま来年度はじめの実態であることを考えると、できる限りの力を付けて子どもたちを送り出していただけたら幸いです。よろしくお願いいたします。

きれい！と光る すてきな実践を紹介します！

古典を読み味わい、自分の考えをもつ指導

国語科編



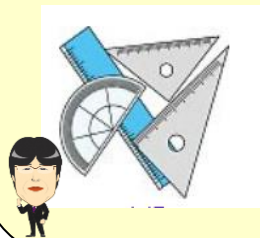
中学校第3学年「夏草—『おくの細道』から」において「歴史的背景等を考えながら、松尾芭蕉のものの見方や感じ方を読み取り、自分の考えをもつこと」に焦点をあてた授業を参観しました。

松尾芭蕉のものの見方や考え方に迫るために、作品の「現代語訳・脚注」を活用しました。また、考えをもつ視点として「現代に生きる私たちが考える旅への考え方と比較すること」を確認し、俳句に込められた思いを交流しながら自分の考えの変容を実感していきました。

現代語訳・脚注を活用した理解をふまえ、松尾芭蕉の思いが地の文や俳句のどの言葉に込められているかを読み取りながら音読につなげていくことで、作品の表現の仕方や文体の特徴に着目して読み味わう姿を具現していただきました。

深い学びと対話的な学び

算数・数学科編



中学校第2学年において、「平行と合同」の授業を参観しました。補助線を使って新たな平行の性質を見だし、説明する場面です。

課題を設定し終わるとすぐに、4人の机が向かい合う小集団学習の隊形になりました。そして、生徒は既習の性質を使えるように補助線を引くことを考え始めました。補助線の必要性に気が付き早速取り掛かっている生徒、仲間と話し合っって試験的に補助線を引いてみる生徒と様々でした。どの生徒にも共通していたことは、個の学びが成立していたということです。

本実践では、個の学びを成立させるために、小集団学習が効果的に行われました。生徒に交流の必然が生じたとき、自然に学び合いが始まり、個の学びに集中する姿がどの生徒にも見られました。「対話的な学び」を考える際、生徒に交流の目的があること、個の学びがあること、そして教科特有の見方・考え方を働かせることの重要性を示していただけました実践でした。

生徒一人一人が問題を見いだす

技術・家庭科編



中学校第1学年「A 材料と加工に関する技術」において、「収納ラックの部品を検査し、必要に応じて修正する」授業を参観しました。

生徒はまず、側板を重ね合わせて寸法のずれを確認したり、スコヤで直角度を検査したりしました。そして、「今日はどんな作業をするのですか。」という教師の問いかけに対し、生徒は「底板に対して、側板が少し傾いているから収納ラックが不安定になります。こぐちをかんなで削って平らにしたいです。」と、本時にやるべき作業内容とその根拠を説明しました。さらに、グループ交流を位置付け、生徒一人一人が修正すべき箇所と作業内容を確認し合いました。その後、作業の時間が始まると、どの生徒も黙々と作業に打ち込みました。

部品の検査や既習の学びに基づいて、生徒一人一人が解決すべき問題を見いだすことや、作業の見通しをもつことの大切さを示していただいた素敵な実践でした。

